

**Sustainability & Climate
Virtual Business Unit**
ご紹介資料

デロイト トーマツ グループ

目次

1	Sustainability & Climate Virtual Business Unitについて	3
2	サービスライン	5
3	関連書籍	12
4	Sustainability & Climate Virtual Business Unitリーダー紹介	18

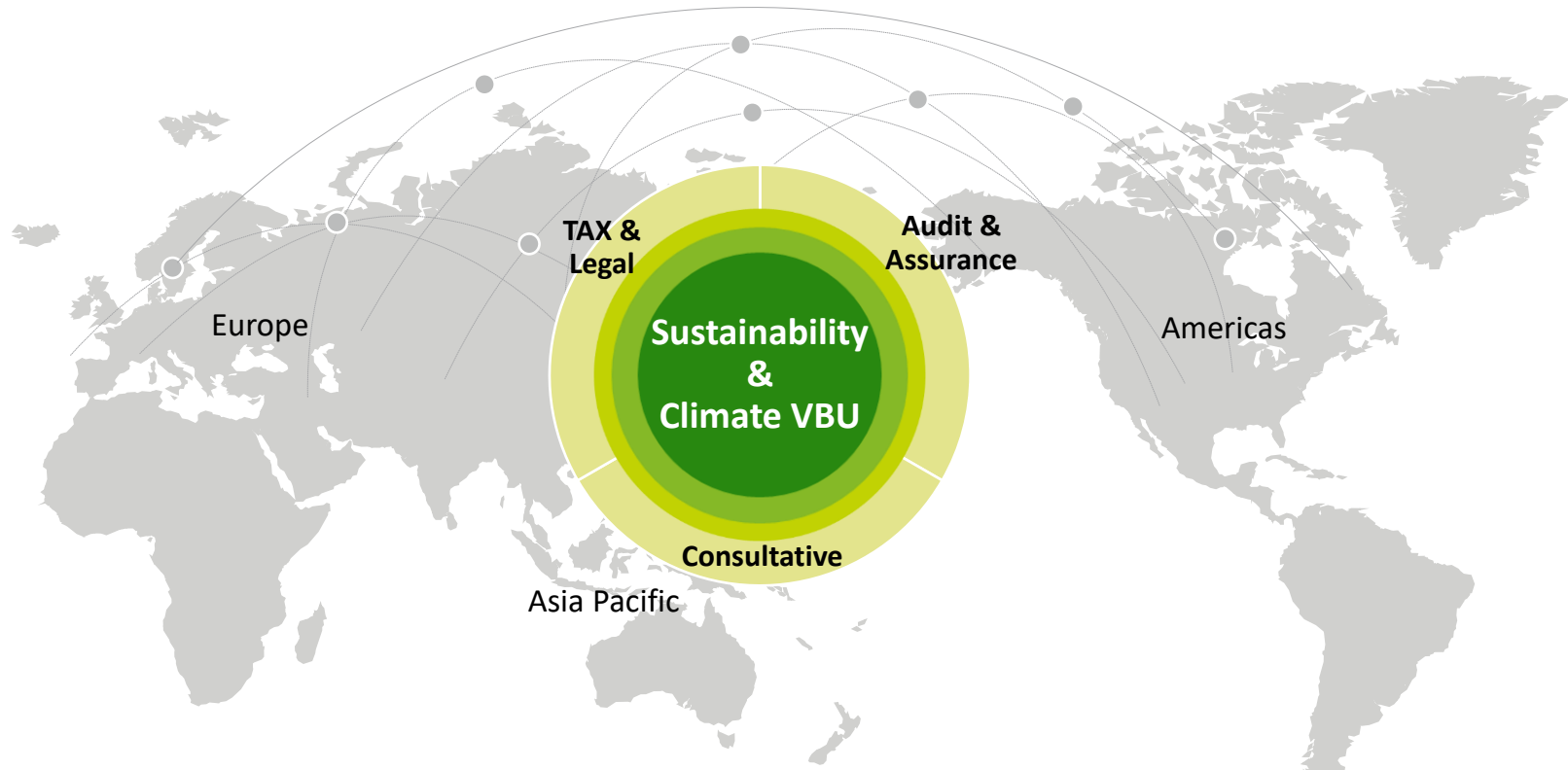




Sustainability & Climate Virtual Business Unit (S&C VBU) について

S&C VBUとは、サステナビリティ・気候変動（s&c）領域において デロイトの有する専門性と総合力をグローバルレベルで結集した、グループ横断組織です

Sustainability & Climate Virtual Business Unit (S&C VBU)



高度な専門性

サステナビリティ・気候変動（s&c）領域における技術や制度に関する知識、深い業界理解など、高度な専門性を有するプロフェッショナルの力を結集します。

ビジネスの垣根を超えた総合力

「監査・保証業務」、「コンサルティング（含むストラテジー・リスク・トランザクション、テクノロジー・トランスフォーメーション）」、「税務・法務」の3つのビジネスが専門領域を超えて結集します。

グローバル連携

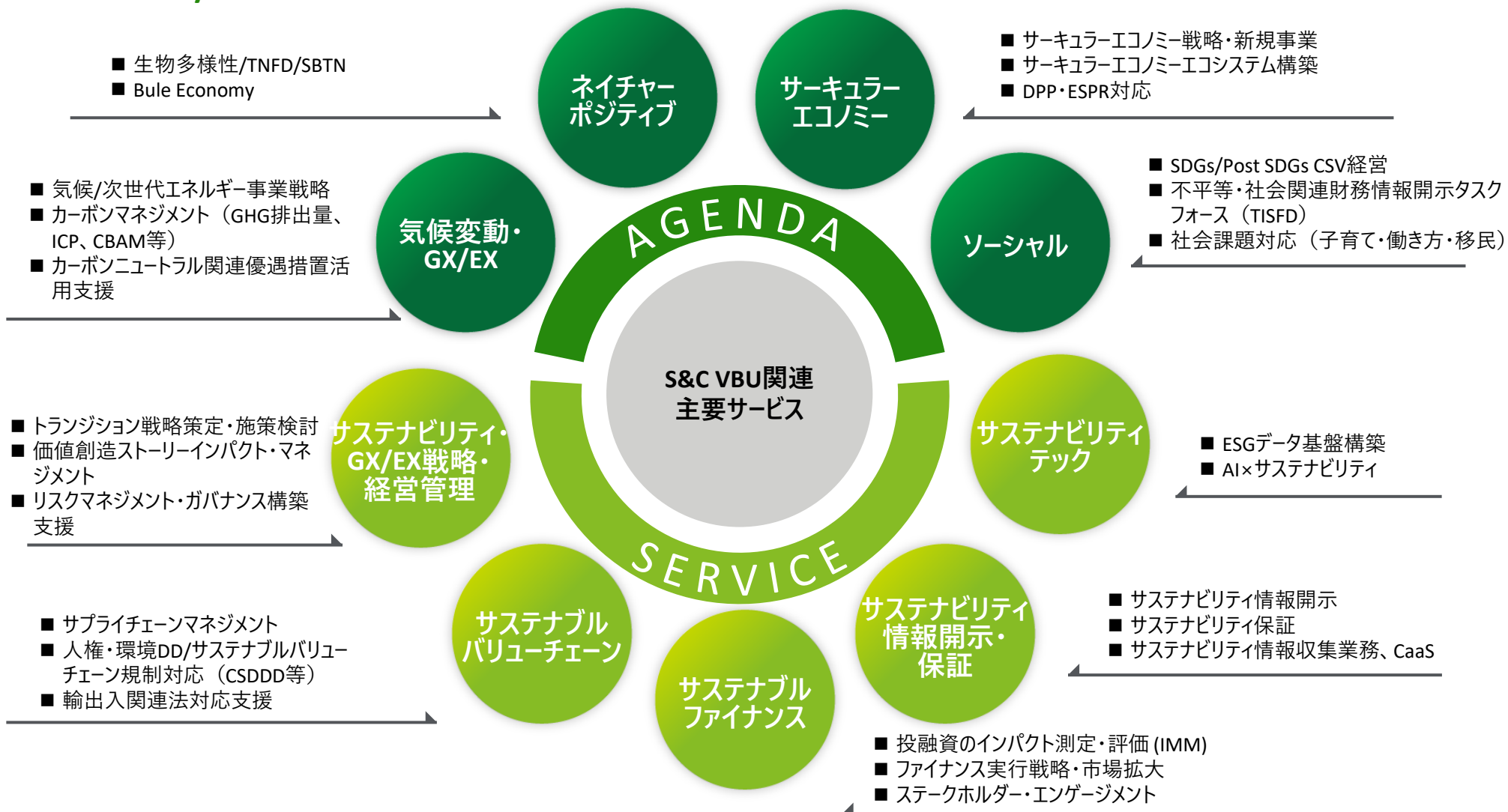
S&C VBUを起点として、デロイトグローバルネットワークの相互連携を促進し、国内に留まらず、グローバルかつ最先端の知見を結集します。



サービスライン

気候変動・サーキュラーエコノミー等のサステナビリティアジェンダに対する知見、 経営管理や情報開示等の企業を支える仕組み構築に関するサービスを提供可能です

Sustainability & Climate関連主要サービスマップ



VBUサービスライン - AGENDA (1/2)

気候変動・GX/EX

気候/次世代エネルギー事業戦略

再生可能エネルギー、水素、CCUSなど革新的なエネルギーインフラの専門家を結集した次世代エネルギーチームを組成し、クライアントの課題解決を官民双方から支援します。

カーボンマネジメント (GHG排出量、ICP、CBAM等)

自社およびサプライチェーンのGHG排出量について、リスクや開示に係る様々な要件を統合的に管理し、継続的にモニタリングするプラットフォームの構築を支援します。また、GXリーグ等の外部環境変化にも対応します。

カーボンニュートラル関連 優遇措置活用・税制対応

カーボンニュートラルに向けた投資促進税制・補助金等の関連する優遇措置の調査、取得可能性の検討、及び申請に係る助言を提供します。

ネイチャー ポジティブ

生物多様性/TNFD/SBTN

自然資本・生物多様性に関する戦略立案から、TNFD開示対応やSBTNの目標設定までワンストップで支援します。また、ベンチャーとの共創や新規ビジネス実装、シナリオ分析、水・土壌に関する戦略、環境配慮型再エネ（ロケーション戦略）など関連するあらゆる分野を高度な専門性をもとに支援します。

Bule Economy

海洋は、世界的な人口増・経済成長を支える供給フィールドとして、その重要性を増しています。海洋をフィールドとしたサステナビリティを具備する事業開発・事業推進を、あらゆる事業領域・テーマを対象に、グループワンストップで支援します。

VBUSサービスライン - AGENDA (2/2)

サーキュラー エコノミー

サーキュラーエコノミー戦略・新規事業

資源循環型ビジネスの実現に向けた戦略策定や新規事業検討をご支援します。インダストリーに特化した資源循環関連の外部環境分析、それを踏まえた資源循環モデルの検討、サプライチェーン上の連携先の検討、経済合理性確保のためのオプション検討、販売・マーケティング施策の検討、といったサービスを提供します。

サーキュラーエコノミーエコシステム構築

資源循環型ビジネスの実現に向けたボトルネックを解消するための官民連携を含むエコシステム構築を支援します。政策・技術調査、政策立案・プログラム・コンソーシアム形成・運営サポート、規格・ガイドライン策定、官民連携プロジェクト立上げ、FS・実証のPMO、等の複数ステークホルダーを巻き込んだサービス提供が可能です。

DPP・ESPR対応

エコデザイン規則（ESPR）/デジタルプロダクトパスポート（DPP）で求められる製品ライフサイクル全体にわたる詳細な情報をデジタルで記録・保存・追跡する仕組みを構築し、情報開示をしていく取り組み全体を支援します。トレーサビリティ管理システムの構築・導入やデータ利活用に向けた事業構想策定・実行の支援も可能です。

ソーシャル

SDGs/Post SDGs CSV経営

温暖化や格差拡大などの社会課題の深刻化に伴い、社会価値創造と経済価値創出の双方を実現するCSV経営が求められます。デロイト トーマツは、Post SDGsの議論の行方も追いつつ、経営戦略や事業戦略、新規事業創出、ビジネスモデル変革、コミュニケーション戦略から、AI活用の価値最大化など幅広い支援を通じて、新たな競争優位の確立を支援します。

不平等・社会関連財務情報 開示タスクフォース（TISFD）

ESGのE（環境）における企業による非財務情報の開示が加速する中、TISFDをはじめとするS（社会）における開示基準の整備が進んでいます。デロイトはTISFDのナレッジパートナーとして、基準設定のタスクフォースの技術的支援を行っており、ルールに基づいた企業価値を最大化した形でS（社会）に関する開示支援が可能です。

社会課題対応 （子育て・働き方・移民）

格差拡大などの社会課題、特に日本における少子高齢化社会での子育て支援や、労働力減少を背景とした今度顕在化するであろう移民課題等に対して、デロイト トーマツの総合力を生かし、政策立案から、CSV経営の実装、企業変革支援、法規制対応など幅広く対応します。

VBUサービスライン - SERVICE (1/3)

サステナビリティ・GX/EX戦略・経営管理

トランジション戦略策定・施策検討

サステナビリティを起点としたトランスフォーメーションを実現するための戦略および施策の検討を支援します。ミッション・ビジョン再設計、長期戦略、事業ポートフォリオ変更やM&A、中計へのサステナビリティ組み込み、脱炭素に実現に向けた移行計画策定・実現施策の検討等に関するサービスを提供します

価値創造ストーリー構築 インパクトマネジメント

マテリアリティやサステナビリティと企業価値・ステークホルダー価値の関係を、中計や長期戦略も踏まえた定性的なストーリーとして整理します。また、IFVI・VBA・IWA等の手法を組み合わせた環境社会インパクトの貨幣化、リスク・機会に対する財務影響の試算を行います。それらの定量化されたインパクトも統合して、経営管理を高度化を支援します。

リスクマネジメント・ガバナンス構築支援

ESG・人権コンプライアンス統制や環境リスクマネジメントの強化、組織風土改革を含めたリスクマネジメント体制の構築を支援します。サステナブル関連のKPI・KRIを含むデータを、統合データ基盤で一元化して業務効率を高めつつ、本社部門による適切な権限設計により、効果的なガバナンス体制の構築を支援します。

サステナブルバリューチェーン

サプライチェーン マネジメント

短期～中長期に持続可能なサプライチェーンの設計を推進します。リスク・機会の収集・評価を行い、環境配慮設計から持続可能な調達方針、海外法規制対応（CBAM・関税等）を総合的に対応したサプライチェーンを構築します。サプライチェーン全体のGHG排出量算定から、排出権調達も含めたサステナビリティ経営の推進までを包括的に支援するサービスも提供しています。

人権・環境DD/サステナブルバリュー チェーン規制対応（CSDDD等）

CSDDD等が要請するバリューチェーン全体の人権および環境の負の影響の是正・リスク管理の高度化を支援します。全社方針の策定・バリューチェーン上の重要リスクの特定・詳細リスクアセス・苦情処理メカニズムの構築・モニタリング評価といった一連のDDプロセス構築に関するアドバイスを提供します。またサプライヤー等との情報授受やサプライチェーン構造可視化のサポートツール導入を支援します。

輸出入関連法対応支援

国際情勢の緊迫化、相互関税や輸出入法の改正等の政策・法制度変更、経済安保関連リスクの高まりなど、貿易取引を取り巻く不確実性の高まりに対して、各領域の専門家がグローバルワンストップサービスを提供します。コンプラ体制高度化、税負担削減・最適化、貿易・経済安保に関するガバナンス強化、技術/情報流出法制・リスク対応等を支援します。

VBUサービスライン - SERVICE (2/3)

サステナブル ファイナンス

投融资のインパクト測定・評価

インパクト投融资基準・ポートフォリオにおけるインパクトの測定・評価（IMM）手法の構築を支援します。投資リターンとの相関分析、経済波及効果の計測など、サステナブルファイナンスと投資戦略、価値創造ストーリーとの接続を支援します。インパクトレポートにおけるインパクトの可視化・効率性向上を、AI・データベース導入も踏まえて実施します。

ファイナンス実行戦略・市場拡大

投融资先のニーズに合致し、かつ、バリューアップに有効な金融商品開発を、新技術におけるFinancial Bankabilityの検討、サプライチェーンを考慮した資金供給等の新領域の拡大も含め支援します。新商品開発に際して参照される国際原則・タクソノミーの動向調査、政策策定支援、人材育成、コンソーシアム運営など多面的に支援します。

ステークホルダー・エンゲージメント

刻々と変化する市場環境、開示規制導入等の動向を踏まえ、エンゲージメントに必要な最新市場動向の調査から、エンゲージメント・アプローチの構築、エンゲージメント結果の投融资戦略への反映まで、End to Endで支援します。

サステナビリティ 情報開示

サステナビリティ情報開示

マルチステークホルダーを意識した企業価値向上の観点から、SSBJやCSRD、TCFD・TNFDなど非財務情報の開示内容の検討・作成を支援します。また、日本以外のグループ会社が所在する国の開示規制やその他基準の動向も把握し、グループ全体で重複なく効率的なサステナビリティ情報開示を実現するための構想やアクションプラン、ロードマップ策定を含めた情報開示戦略の立案を支援しま

サステナビリティ保証

統合報告書やCSR報告書、サステナビリティレポート、さらに現在議論されているSSBJ基準に基づく有価証券報告書にに掲載される温室効果ガス（GHG）排出量などの環境データ、従業員情報やダイバーシティ、品質・安全などの社会性データに対する、独立した第三者による保証の重要性が高まっています。これらの背景を踏まえ、非財務情報に関する保証・検証サービスを提供し、企業の信頼性向上を支援します。

サステナビリティ 情報収集業務CaaS

GHG排出量管理等をはじめとする非財務情報の収集・登録業務の現状把握から課題の特定ならびに優先順位付け、業務運用プロセスの改善やシステム導入・運用に至るまで、企業のサステナビリティ情報開示関連業務の高度化・平準化を一貫して支援します。

VBUサービスライン - SERVICE (3/3)

サステナビリティ テック

ESGデータ基盤構築

財務と非財務の融合が進むことで戦略策定・目標設定からモニタリング・実績開示まで、ESGデータを扱う経営基盤が必須です。企業のニーズに基づき、様々なESGツールから最適なソリューションを選定・導入するサービスを提供します。

AI×サステナビリティ

AIを活用し、サステナビリティに関するビジネス・業務の効率化や、新規事業の創出を支援します。特にレポートの自動化や、エネルギーシステムの将来予測（シナリオ分析）、リサイクルプラントの最適化等を支援します。

An aerial photograph of a dense forest. The trees are mostly green, with some showing yellow and orange hues, suggesting autumn. The canopy is thick and textured.

関連書籍

2050年カーボンニュートラル実現に向け ビジネスと社会のあり方を抜本的に変革する グリーン・トランスフォーメーション（GX）の推進を提唱します

脱炭素化に向けた情報発信（1/4）

グリーン・トランスフォーメーション戦略 日経MOOK



出版概要

発行 日本経済新聞出版
著者 デロイト・トーマツグループ
売価 1,980円（税込）

CONTENTS	
目次	1
Part 1 カarbonニュートラル達成に必要な「GX戦略」	11
Part 2 カarbonニュートラルとサーキュラーエコノミーの同時実現	21
Part 3 「GX戦略」を経営に実装する	31
Part 4 「GX戦略」を実現する注目のグリーンテクノロジー	41

“カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーの考え方が進む世界において、日本企業が今こそ取り組むべき「グリーン・トランスフォーメーション(GX)」の進め方を、24名のプロフェッショナルが示す”

- 日本がカーボンニュートラルの世界を実現するには、従来の脱炭素の取り組みに加え、物質とエネルギーの両面から資源循環を包括的に捉え、その最適化を通じて環境負荷と社会的なコストを持続的に低減させることが重要。
- さらに、こうした取り組みを率先する企業に資本市場を通じて資金が供給される仕組みを拡充することが求められる。
- 本書は、こうした包括的な視点に立ち、物質、エネルギー、資金の3つの側面から、ビジネスと社会のあり方を抜本的に変革するGXの推進を提唱するもの。

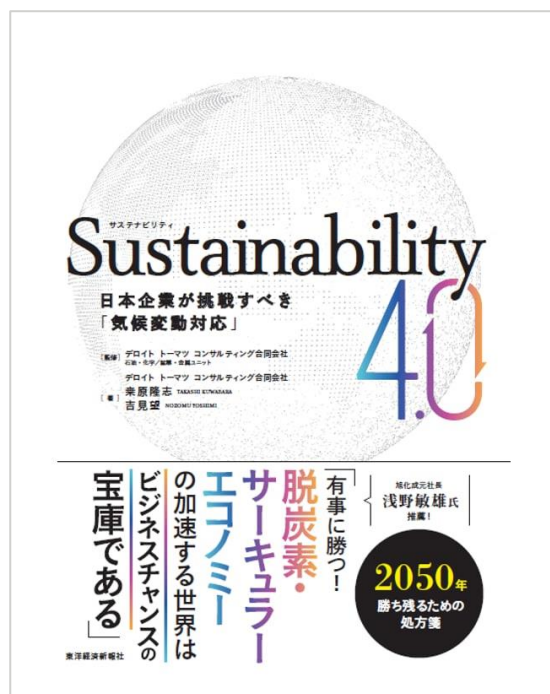
目次

巻頭対談	長期的視点に立った変革に日本企業の勝ち筋がある
Part 1	カーボンニュートラル達成に必要な「GX戦略」
Part 2	カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーの同時実現
Part 3	「GX戦略」の基軸となる変革の方向性
Part 4	「GX戦略」を経営に実装する
Part 5	「GX戦略」を実現する注目のグリーンテクノロジー

「サステナビリティ4.0」は社会を新しく創る時代であり 本書では真の環境価値を追求する日本企業の強みを活かし 気候変動対応で世界をリードするための道筋を照らします

脱炭素化に向けた情報発信（2/4）

Sustainability4.0 日本企業が挑戦すべき「気候変動対応」



出版概要

発行 東洋経済新報社
著者 デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
売価 1,870円（税込）

“カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミーを中心とした、昨今の気候変動対応は、高度経済成長期に顕在化した公害問題から数えて、これで4度目の「ブーム」になる。これをわれわれは「サステナビリティ4.0」と呼ぶことにした”

- サステナビリティ4.0は社会を新しく創る時代であり、その社会に向けて多くの新しい事業モデル・技術が求められている。
- 気候変動対応に対して「やらなければならない」後ろ向きな思考でなく、新規事業開発・事業発展を実現する前向きな事業機会の宝庫であると捉えると、新しい事業モデル・技術の実現に伴う成長のチャンスを掴むことが出来ると考えている。
- 真の環境価値を追求する日本企業の強みを活かし、気候変動対応で世界をリードするための道筋を照らす1冊。

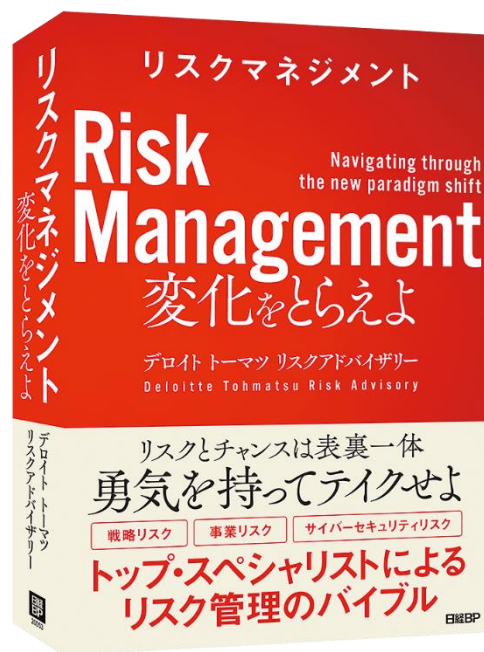
目次

- | | |
|-----|---------------------------|
| 第1章 | 50年早まった気候変動対応 |
| 第2章 | サステナビリティ4.0で日本の競争力を創るヒント |
| 第3章 | 気候変動解決への挑戦 |
| 第4章 | サプライチェーンの変革に伴って訪れる大きな事業機会 |
| 第5章 | 素材・エネルギー産業の変革が気候変動対応の鍵を握る |
| 第6章 | サステナビリティ4.0の先を見据えて |

デロイト トーマツ リスクアドバイザーの英知を結集した書籍 『リスクマネジメント 変化をとらえよ』を出版しました

脱炭素化に向けた情報発信（3/4）

『リスクマネジメント 変化をとらえよ』



出版概要

発行 日経BP社
著者 デロイト トーマツ リスクアドバイザー
売価 2,200円（税込）

丸善 丸の内本店
ビジネス書ランキング 2位

※丸の内本店週間ベストセラー
（2022年12月8日～12月14日）

“

リスク及びリスクマネジメント全体をカバーした
不確実性の高い時代にリスクテイクするための必読書

”

経済安保、人権問題、自然災害、
サプライチェーンリスク、FCPA、サイバー、サステナビリティ……。
企業は日々 想定外のリスクに直面している。
だが、リスクを恐れずテイクせねば成長もできない。
リスクに対する基本的な考え方と必要な取り組み方を、
詳細に解説した経営者・ビジネスパーソン必読の1冊！

目次

- 第1章 リスクマネジメントは経営そのもの
- 第2章 リターンを生むための戦略リスクマネジメント
- 第3章 事業リスクに共通するサプライチェーンリスク
- 第4章 DXで高まるサイバーセキュリティリスク
- 第5章 賢くリスクテイクできる態勢を整える
- 第6章 体系的に情報を集め意思決定を高度化する
- 第7章 データアナリティクスでリスクマネジメントを精緻化する
- 第8章 マーケットとの対話は企業の責任
- 第9章 おわりに

日本の新成長戦略を提言

『価値循環が日本を動かす 人口減少を乗り越える新成長戦略』を刊行しました

脱炭素化に向けた情報発信（4/4）

『価値循環が日本を動かす 人口減少を乗り越える新成長戦略』



出版概要

発行 日経BP社
著者 デロイトトーマツグループ
売価 1,980円（税込）

amazonランキング
マクロ経済学 1位
(2023年3月22日)

丸善 丸の内本店
ビジネス書ランキング 1位
(2023年3月16日～3月22日)

- 「失われた30年」をへて人口減少に直面し、日本は「これ以上成長できない」という停滞感に覆われている。
- 本書では発想を転換し、日本が人口減少を乗り越えるための新成長戦略を「**価値循環**」という考え方を軸に提唱する。
- 「**価値循環**」とは、ヒト・モノ・データ・カネという「4つのリソース」の循環と、人口減少下でも増加する「4つの機会」とを掛け合わせ、**新たな需要創出の機会**を切りひらく考え方だ。
- さらに、「**価値循環**」の考え方を、環境・エネルギー、モノづくり、ヘルスケア、観光、地域創生という5つの領域に当てはめ、日本の課題と強みが交差する10のテーマに関し具体的需要創出シナリオを提示する。
- 今後世界人口が減少局面に入ること考えれば「**価値循環**」は、「**22世紀型**」の**成長モデル**としてこれからの世界全体の羅針盤となる可能性を秘めている。

目次

- | | |
|-----|---------------------------|
| 第1章 | 変われなければ日本は沈む 求められる「発想の転換」 |
| 第2章 | 価値循環がもたらす成長のダイナミズム |
| 第3章 | 持続的成長を可能にする4つのリソースの循環 |
| 第4章 | 発想の転換が呼び込む4つの機会 |
| 第5章 | 日本を動かす10の需要創出シナリオ |
| 第6章 | 世界に先駆けた「22世紀型」成長モデルへ |



S&C VBUリーダー紹介

**S&C VBU
Leader**



岩村 篤

S&C VBU Leader



丹羽 弘善

S&C VBU Leader

**各ビジネス
S&C VBU
Leader**



飯塚 智

Audit & Assurance Leader



増田 洋平

Audit & Assurance Leader



北潟 将和

Consultative Leader



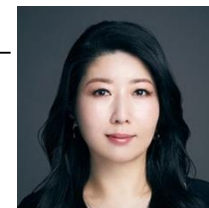
長谷川 孝明

Consultative Leader



加藤 健太郎

Consultative Leader



大塚 泰子

Consultative Leader



三浦 正暁

Tax & Legal Leader

Chief of Staff



山崎 英幸

Chief of Staff



AP S&Cとの連携について

ESGデータ管理・分析、GHG排出量算定に係る作業、保証・開示に向けたデータ整形等、AP S&C CoEを活用することで、業務効率化を図ることが可能

AP S&C CoEの概要

組織概要

APのサステナビリティ・クライメートの領域における各種業務の一部を受託するCoE組織。主に以下のトピックでサービスを提供

ESG関連データ分析

- ESGデータ管理及びレポートニング準備
- セクター/競合比較分析、ベンチマーキング
- デロイトアセット/ツールとの接合

GHG排出量（Scope1・2・3）

- 管理・分析に向けたデータのクレンジングと取込み
- 各レポート標準向けのデータ整形
- Scope3の排出源特定、データ収集・管理

グローバル規制対応

- Taxonomy等、グローバル規制対応準備
- 開示要求項目と現状比較、Fit & Gap分析
- DD業務

ESG保証

- 非財務保証対応（ISAE3000, AA1000等）
- 開示データの認証・保証
- 排出量開示データの検証（ISO14064等）

Net-zero/脱炭素

- 気候関連リスクと機会の特定
- カーボンフットプリントや気候シナリオ分析、サプライチェーンの脱炭素化、気候関連の戦略策定準備

アセット/ ツールの ケイパビリティ

以下のアセット/ツールを使用し、業務提供

- ESGデータ管理・開示ツール
 - IBM Envizi, Workivia
- データ分析・可視化ツール
 - Spread sheet, Power BI
- ESGデータ統合・標準化
 - Refinitive ESG data platform

Introducing GreenSpace Tech by Deloitte

An AI-enabled accelerator that matches business needs and climate objectives with the right existing and emerging technology solutions and insights.

Global Research & Intelligence

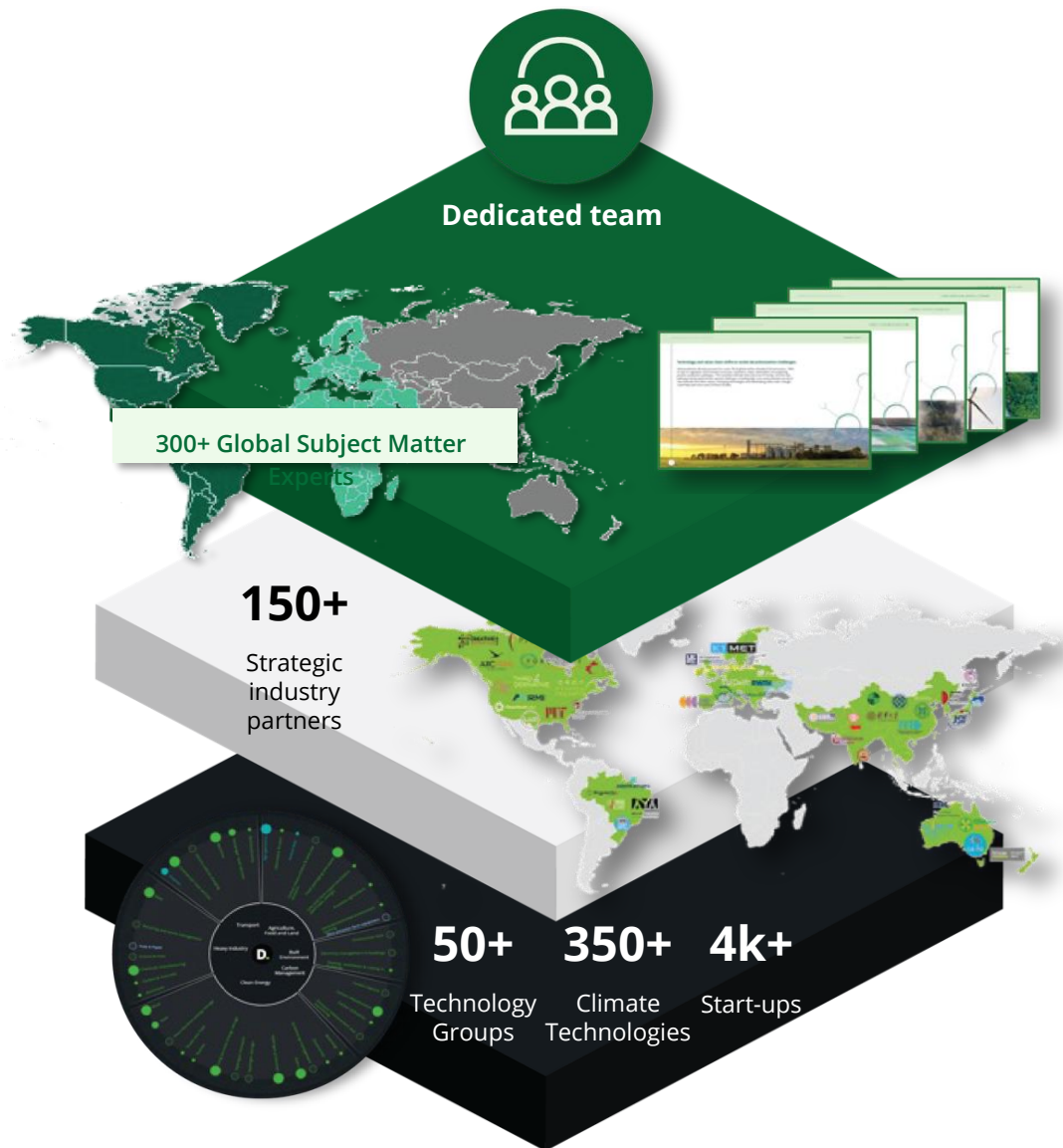
Research & Intelligence Team with a cross-border network of 300+ SMEs

Innovator Ecosystem

With 150+ global partnerships

GreenSpace Navigator

An AI-powered research tool used to gather climate technology market intelligence



デロイト トーマツグループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ リスク アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ グループ 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従いプロフェッショナル サービスを提供しています。また、国内約30都市に2万人超の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト、www.deloitte.com/jp をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュート マツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー ファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数を指します。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバー ファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバー ファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、最先端のプロフェッショナルサービスを、Fortune Global 500®の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促進することで、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来180年の歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約46万人の人材の活動の詳細については、www.deloitte.com をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、デロイト トウシュート マツ リミテッド（DTTL）、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家に相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。またDTTL、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対して責任を負いません。DTTLならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMSそれぞれの認証範囲はこちらをご覧ください
<http://www.bsigroup.com/clientDirectory>